

オリンピック・パラリンピックに向かって —東京の未来を考える—

Towards Olympics and Paralympics – Thinking about the future of Tokyo –

特集担当主査：名越 聖子

特集企画担当：小里 好臣、金木 大輔、鯨岡 史歩、佐藤 俊介、鈴木 秀彦、林 昌弘、吉田 征史

Tokyo was selected as the 2020 Summer Olympics and Paralympics host city. For the success of these world's largest events, various planning activities and preparations are going on in the Tokyo metropolitan area.

Compared to the situation of Tokyo in 1964 when Tokyo hosted the Olympics last time, current international positions and issues of Tokyo are very different. In addition, the features of mega events and cities have also changed with time. Hosting the 2020 Tokyo Olympics and Paralympics would be a great opportunity to boost the further evolution and development of Tokyo and entire Japan. Hence, what can we civil engineers contribute?

It is our intention that this special issue will provide an occasion to think about the future of Tokyo taking the opportunity of hosting the 2020 Tokyo Olympics and Paralympics.



2013年9月、国際オリンピック委員会総会にて、2020年夏季オリンピック・パラリンピック開催都市として東京が選ばれた。開催決定から2年が経過したいま、日本全体、特に、東京を中心とした首都圏では、この世界最大のイベントを成功させるための計画・準備が進められている。

前回の1964年東京オリンピックは、開催に向けたインフラ整備、東海道新幹線や首都高速道路をはじめ、一般国道、地下鉄やモノレール、空港整備など、現在の東京の基盤となる大規模プロジェクトが数多く進められた。そして、東京オリンピックの成功は、日本の戦後復興や高度成長を国際社会にアピールし、国民に夢や希望、活力を与え、日本の飛躍的成長に大きく貢献した。

同じく高度成長期に開催された大阪の万国博覧会、札幌オリンピックの成功もあり、その後のメガイベントは、開催都市発展の起爆剤と期待され誘致された。しかし、世の流れ、国民の生活や意識は変化しつづけている。メガイベントもその影響を受け、以前と同じようにはいかず開催に費やし

たインフラ整備の負担や自然環境破壊など、新たな問題や課題に直面するケースも見られるようになった。一方で、近年はロンドンオリンピック・パラリンピックや上海万博など大都市でメガイベントが開催される傾向が再びみられるようになっていく。都市におけるメガイベントの位置付けは、時代の流れとともに変化してきていることが感じられる。

ここで、2020年の東京オリンピック・パラリンピックをどのようを迎えるかを考えたい。現在の東京を取り巻く環境は、前回の1964年開催時と全く異なる状況である。東京は成熟都市となったが、少子高齢化、交通渋滞や環境汚染、景観問題、首都直下地震などの大規模災害に対する防災、高度成長期に建造されたインフラの維持管理や機能更新など、新たな問題に直面している。また、オリンピック憲章には、「オリンピック競技大会のよい遺産(レガシー)を、開催都市ならびに開催国に残すことを推進すること」と記されている。オリンピック・パラリンピックの開催は、東京や日本全体のさらなる進化や発展を後

押しするビッグチャンスと考えられるのではないだろうか。そこで、われわれ土木技術者が貢献できることは何だろうか。

巻頭インタビュー「世界一の都市：東京を目指して」は、オリンピック・パラリンピック開催都市である東京都の舩添要一都知事に、オリンピック・パラリンピックの開催に向けての想い、また、この大会を契機とした

2040年代の東京のグランドデザイン、その実現にあたって土木技術者に期待していることを伺った。次に、「過去・経過を知る」をテーマに、日本の高度成長を後押しした1964年東京オリンピックに向けて整備されたインフラを文献などによりレビューし、当時土木技術者として活躍されていた東京都市大学名誉総長の中村英夫先生に東京のインフラ整備について語っていただいた。また、一橋大学町村敬志先生に、過去50年のオリンピック・パラリンピックの開催都市を時代変遷と経済発展の面から考察し、2020年東京オリンピック・パラリンピックに対する課題を提起していただいた。

そして、「未来：これからを考える」をテーマに、東京の都市および交通問題に造詣が深い東京大学・政策研究大学院大学家田仁先生とオリンピック・パラリンピック組織委員会の廣瀬隆正氏に、エホックメーカーキングイベントにおける都市交通対策のあり方をもとに、これからの都市空間に求められる課題について対談していただいた。

最後に、オリンピック・パラリンピック開催の意義を考えるうえでキーワードになる「レガシー」については早稲田大学野義之先生に、これからの東京を考えるにあたり、東京の国際的な位置付けを知る指標となる「世界の都市総合力ランキング」については森記念財団浜田祐子氏に解説していただいた。本特集は、過去の東京オリンピック、メガイベントと都市発展のプロセス、そして、現在の東京を知り、それを踏まえて2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした東京のこれからを考える一助となるものにした。